

履修方法について (修士課程)

テキスト履修 (略号:T)

指定されたテキストをもとに自宅で学習し、レポートを提出して添削指導を受け、その後科目最終試験(在宅レポート試験)を提出します。合格すれば履修完了となり年度末に修得単位として認定されます。

スクーリング履修 (略号:S)

指定された日時に大学の教室で教員から直接授業を受けます。科目ごとに定められた受講時間(時間割)すべてに出席し、終了後に実施されるレポート試験または教室試験に合格すれば履修完了となり、年度末に修得単位として認定されます。専攻によって日程や時間割、修得できる単位数が異なります。

テキスト・スクーリング履修 (略号:T・S)

テキスト履修(T)とスクーリング履修(S)を併用する履修形態です。レポート、科目最終試験(在宅レポート試験)、スクーリングすべてに合格しなければなりません。T履修とS履修は、どちらを先に履修してもかまいません。

※臨床心理学専攻のみの履修です。

スクーリング・テキスト履修 (略号:ST)

指定された日時に大学の教室で教員から直接授業を受けます。科目ごとに定められた受講時間(時間割)すべてに出席し、そこで指示された課題についてテキストなどで学習を深め、後日レポートを作成し、期限までに提出します。

修士論文・課題研究 (略号:G)

指導教員による個別指導と修士論文中間発表会や合同授業における複数教員による集団指導を受けながら論文を作成します。

実習 (略号:E)

配属実習のことです。

※臨床心理学専攻のみの履修です。詳細は33頁をご覧ください。

テキスト履修のイメージ

テキストによる学習

テキストや参考文献を通して学習します。

レポート作成・提出

テキスト履修(T)の科目はそれぞれ設題が設けられています。その設題に基づいて研究の成果をレポートにまとめます。レポートの字数は、2単位で6,400字(1単位あたり3,200字)となります。完成したレポートは所定の受付期間(毎月1日~10日(必着))に大学へ提出し、担当教員の添削指導を受けます。1回の受付期間に提出することができるのは2科目までです。レポートはA、B、C、Dの4段階で評価され、返却されます。評価がDの場合は再提出となります。

科目最終試験受験

全ての設題分のレポートが合格すれば科目最終試験を受験します。試験方法は在宅での論述試験です。合格したレポートの返却時に、レポート作成による学習をさらに発展させた試験問題が与えられ、1科目につき3,200字程度にまとめて提出、評価を受けます。科目最終試験は100点満点中60点以上が合格、59点以下は再受験となります。

SSTnetシステムを利用してレポートの提出と、科目最終試験答案の提出を行なうことが可能です。→詳細は42頁を参照

履修期間と単位認定

11月10日(必着)までにレポートを提出・合格し、12月10日(必着)までに科目最終試験を受験し、合格することで当該年度の履修完了科目となります(3月25日付単位認定)。

スクーリング履修のイメージ

受講申込み

各科目ごとの年間開講日程を確認し、自らの学習計画に合わせ受講する科目を選択、受講の申込みをします。

SSTnetシステムを利用してスクーリングの受講申込みを行なうことが可能です。→詳細は42頁を参照

事前学習

スクーリングを受講するまでに、担当教員から事前学習の指示があります。その指示にしたがって受講の準備(予習等)を行います。

スクーリング受講

各科目ごとに定められた日程・受講時間に出席します。講義は通常大学にて行なわれますが、専攻によっては教室での講義にとどまらず、学外での実地講義等も行なわれます。最終講時に筆記試験または帰宅後テキスト等で学習を深め、提出するレポート試験が行なわれ、100点満点中60点以上が合格、59点以下は再受講となります。

単位認定

合格した科目は、当該年度の履修完了科目となります(3月25日付単位認定)。

【参考】スクーリング開講科目・日程一覧(2016年度)

2016年度のスクーリング履修科目(S履修・T・S履修・ST履修)の開講日程を参考に掲載します。開講時期や受講日数等の目安として参照してください。なお、2017年度の開講日程は未定です。入学後、補助教材等でご案内します。

仏教学専攻

科目名	日程	修了にかかるスクーリング受講日数(目安)
仏教学研究基礎1	5月21日,22日	15日程度 受講が必要
仏教学研究基礎2	5月14日,15日	
仏教学研究基礎3	5月14日,15日	
法然教学演習1	8月1日,2日,3日	
法然教学演習2	10月8日,9日,10日	
浄土教学演習1	6月11日,12日,18日,19日	
浄土教学演習2	7月23日,24日,25日	
仏教学演習1	5月21日,22日,28日,29日	
仏教学演習2	7月25日,26日,27日	
仏教学演習3	7月21日,22日,23日	
仏教学演習4	7月28日,29日,30日	
仏教文化演習1	6月11日,12日,18日,19日	
仏教文化演習2	7月16日,17日,18日	
仏教文化演習3	7月28日,29日,30日	
仏教文化演習4	8月4日,5日,6日	
仏教学特論1	9月8日,9日,10日	
仏教学特論2	9月4日,6日,7日	

文学専攻

科目名	日程	修了にかかるスクーリング受講日数(目安)
日本文学研究基礎	6月11日,12日	10日程度 受講が必要
日本文学演習1	7月18日,22日,23日	
日本文学演習2	7月16日,8月1日,2日	
日本文学演習3	5月15日,6月18日,19日	
日本文学演習4	10月8日,9日	
日本語学演習	7月24日,25日	
書道研究	7月26日,27日	
漢学研究	8月1日,2日,3日	
日本文学研究	7月17日,30日,31日	
中国学研究基礎	6月18日,19日	
中国文学演習1	7月25日,26日	
中国文学演習2	7月26日,27日	
中国文学演習3	7月31日,8月1日	
中国語学演習	7月28日,29日	
中国思想演習	7月29日,30日	
異文化接触研究(中国)	7月16日,17日	
中国学研究	7月17日,18日	
英米学研究基礎	6月18日,19日	
英米文学演習1	7月23日,24日	
英米文学演習2	7月26日,27日	
英語学演習1	7月26日,27日	
英語学演習2	7月28日,29日	
異文化接触研究(英米)	7月23日,24日	
英米学研究	7月30日,31日	

歴史学専攻

科目名	日程	修了にかかるスクーリング受講日数(目安)
歴史学研究基礎1	5月14日,15日	10日程度 受講が必要
歴史学史料演習1	7月28日,29日,30日	
歴史学史料演習2	8月4日,5日,6日	
歴史学特殊研究3	9月1日,2日,3日	
歴史文化資料演習1	7月16日,17日,18日	
歴史文化資料演習2	8月1日,2日,3日	
歴史文化特殊研究3	9月5日,6日,7日	
歴史学フィールドワーク	11月5日,6日	
外国語文献研究	5月28日,29日	
歴史情報資源論	10月8日,9日	

生涯教育専攻

科目名	日程	修了にかかるスクーリング受講日数(目安)
教育人間学演習	8月5日,6日,7日	9日程度 受講が必要
比較教育学演習	8月11日,12日,13日	
比較教育学演習	11月5日,6日,19日,20日	
教育制度学演習	7月25日,26日,27日	
教育方法学演習	10月8日,9日,10日	

臨床心理学専攻

科目名	日程	修了にかかるスクーリング受講日数(目安)
臨床心理学特論1	5月14日	16日程度 受講が必要
臨床心理学特論2	11月5日	
臨床心理面接特論1	5月21日	
臨床心理面接特論2	11月3日	
臨床心理査定演習1	7月25日,26日,27日	
臨床心理査定演習2	7月28日,29日,30日	
臨床心理査定演習4	8月11日,12日,13日	
臨床心理基礎実習1	7月25日,26日,27日	
臨床心理基礎実習2	7月28日,29日,30日	
臨床心理基礎実習3	8月8日,9日,10日	
臨床心理基礎実習4	10月8日,9日,10日	
臨床心理学3	5月22日,6月26日,7月24日,9月18日,10月23日,11月27日,12月18日,1月22日	
心理療法特論1	8月8日,9日,10日	
心理療法特論2	8月11日,12日,13日	
心理学特別演習1	5月28日,29日,6月4日,5日	
心理学特別演習2	6月11日,12日,18日,19日	

社会学専攻

科目名	日程	修了にかかるスクーリング受講日数(目安)
社会学理論研究	5月14日,15日	8日程度 受講が必要
社会学演習1(社会文化)	6月18日,19日	
社会学演習2(社会情報)	10月8日,9日	
社会学演習3(共生臨床)	7月16日,17日	
社会学演習4(社会理論)	8月6日,13日	
社会調査論	11月5日,6日	
ソーシャルマネジメント理論研究	5月21日,22日	
ソーシャルマネジメント演習1(概論)	5月28日,29日	
ソーシャルマネジメント演習2(地域)	6月4日,5日	
ソーシャルマネジメント演習3(地域)	7月23日,24日	
ソーシャルマネジメント演習4(地域)	7月30日,31日	

社会福祉学専攻

科目名	日程	修了にかかるスクーリング受講日数(目安)
共生とケアI	7月28日,29日	16日程度 受講が必要
共生とケアII	7月29日,30日	
乳幼児保育特殊研究	6月18日,19日	
児童福祉特殊演習	6月4日,5日	
障害者福祉特殊研究	7月17日,18日	
障害者福祉特殊演習	7月23日,24日	
高齢者福祉特殊研究	11月5日,6日	
高齢者福祉特殊演習	11月3日,5日	
精神保健福祉特殊研究	7月25日,26日	
精神保健福祉特殊演習	7月26日,27日	
地域福祉特殊演習	11月19日,20日	
医療福祉特殊研究	10月8日,9日	
現代社会福祉問題特殊研究	8月5日,6日	
社会福祉学研究基礎1	5月14日,15日,21日,22日	
児童福祉特殊研究	8月1日,2日	
地域福祉特殊研究	7月16日,17日	
乳幼児保育特殊演習	6月11日,12日	
医療福祉特殊演習	10月9日,10日	
福祉の国際比較	8月2日,3日	

修士論文・課題研究(略号:「G」)

研究から提出まで2か年をもって取り組みます。広い視野に立つ精深な学識と、その専攻分野において有する高度な研究能力を立証することが要求されます。なお、本学大学院では「修士論文」「課題研究」は単位化せず、所定の修了単位とは別に課します。

修士論文・課題研究作成のイメージ

研究テーマの提出と指導教員の決定

所定の時期(入学手続き時に指示)に、各々の研究対象や課題に則して「研究テーマ」を作成し、提出します。提出された「研究テーマ」に基づき指導教員が決定します。

「研究計画書」の作成・提出

指導教員が決まると、その指導のもと、より具体的な「研究計画書」の作成にかかります。作成には、指導教員との面接指導のやり取りが重要となります。

SSTnetシステムを利用して「研究計画書」の提出や面接指導の申込みを行なうことが可能です。
→詳細は42頁を参照

「研究計画書」に基づき個人研究

テキスト履修、スクーリング履修を通じて研究内容に沿った学習やその周辺領域の学習を重ね、専門性を高めていきます。スクーリングの受講は、他の学生同士の人的交流・情報交換の場として、学習意欲を高める絶好の機会となります。また、スクーリングの機会を活用し、指導教員に面接指導を申し込むこともできます。研究が進むと、中間発表会等に参加し、研究成果の一部を発表する機会があります。ここでは各自の研究内容に対して、専攻の教員や他の学生から意見交換、質疑応答等を行ないます。周辺領域の分野から積極的な提案、提起を行なうことは、在宅での研究に閉鎖的、孤立的、自己偏重になりがちな各個人の研究活動を、広い視野から見つめ直し、新たな方向性を発見したり、共同研究や学術論文への投稿につながる契機となることでしよう。



「草稿」の作成・提出

「研究計画書」に基づく個人研究が進み、論文題目を完了すると、「草稿」の作成にとりかかります。「草稿」は清書論文を想定した内容・分量となりますが、常時大学院に通学できない通信教育課程の学生にとっては、「草稿」を作成・提出→指導教員による添削・面接指導→「草稿」の再提出…といった過程を経ることで、質的に高い論文完成への下地となります。特に精度の高い論文を書き上げるためには、指導教員との面接指導が重要となります。



「修士論文」作成・提出

「草稿」を提出し、「修士論文・課題研究」としての内容が認められ、かつ修了要件となる所定の単位を修得する見込みがある場合は、清書の許可が与えられます。「修士論文・課題研究」の分量は40,000字程度が基準となりますが、専攻ならびに指導教員の判断によりその内容が増減する場合もあります。また、論文と共に、補助資料並びに今後の当該論文の検索の便を図るために、1,000字程度の「論文要旨」の添付が義務付けられます。

口頭試問

「修士論文・課題研究」を所定の期日までに提出できれば、口頭試問を実施します。口頭試問での修士論文・課題研究の審査は、指導教員を含めた3名の審査員が行ないます。



他専攻聴講について

他専攻聴講とは、各自が所属する専攻以外の専攻で開講される科目を履修できる制度のことです。学習性向や教育課程の多様化のなかで、各専門分野以外の隣接領域の科目を履修することにより、幅広い視点での研究を可能としています。

＜他専攻聴講が可能な専攻は以下の通りです＞

生涯教育専攻・社会学専攻・社会福祉学専攻

※社会福祉学専攻は他専攻聴講により単位を修得しても修了単位として算入することはできません。

※各研究科・専攻で指定される科目で論文指導教員が承認し、かつ科目の担当教員が履修を許可した科目に限ります。

※別途、登録費等が必要となります。詳細は入学後「大学院のしおり」でご案内します。



学部聴講について

学部聴講とは、学習性向や教育課程の多様化のなかで、各専門分野の隣接領域の基礎科目等を履修することにより、専門分野研究の補完等を目的として設けられる制度のことです。

※全専攻可

※基礎となる学部・学科が開講する共通教育科目・専門分野科目で論文指導教員が承認した科目に限ります。

※別途、登録費等が必要となります。詳細は入学後「大学院のしおり」でご案内します。



通学課程開講科目の履修について

在籍する専攻と同じ通学課程の専攻で開講する科目を登録し履修することができる制度です。

＜通学課程大学院開講科目の履修が可能な専攻は以下の通りです＞

仏教学専攻・文学専攻・歴史学専攻・社会学専攻

※登録は、年間4単位を上限とし、修得した単位は、関連科目として6単位を上限に修了単位として算入することができます。

※各研究科・専攻で指定される科目に限ります。

※別途、受講料が必要となります。

詳細は入学後「大学院のしおり」でご案内します。



入学から修了までの履修の流れ

※ 配属実習科目を除く

修業年限 2 年の場合（臨床心理学専攻以外）

	テキスト履修	スクーリング履修	修士論文・指導	
1 年 目	4月	レポートの作成・提出	「研究テーマ」の提出（入学手続き時に指示）	
	5月	添削指導	指導教員の決定	
	6月	科目最終試験の作成・提出	面接指導	
	7月		スクーリングの準備・受講の申込み	
	8月		スクーリングの受講	
	9月		学習のまとめ・レポート提出等	
	10月	レポートの提出は、毎月 1 日～10 日の受付期間に行ないます。1 回に提出できるレポートは 2 科目までです。		「研究計画書」の提出
	11月		個人研究の推進	
	12月		中間発表会（日程は専攻により異なる）	
	1月		面接指導	
	2月		面接指導	
	3月		面接指導	
2 年 目	4月	テキスト履修科目については、2 年目の夏ごろまでに完了しておくことが望ましいです。	中間発表会（意見聴取・質疑応答）（日程は専攻により異なる）	
	5月		「修士論文」作成の許可まで「草稿」に基づき面接指導を幾度も受けることになります。	
	6月		面接指導	
	7月		「草稿」の作成・提出	
	8月		面接指導（「草稿」に基づき）	
	9月		「草稿」の再作成・再提出	
	10月		面接指導（「草稿」に基づき）	
	11月	レポート提出最終期限（11月10日）		「草稿」の再提出
	12月	科目最終試験提出最終期限（12月10日）		「草稿」の提出最終期限（12月15日）
	1月			「修士論文」提出の許可判定／許可・作成着手（不許可の場合は研究継続を指示）
	2月			「修士論文」の提出
	3月			審査員 3 名の審査 口頭試問の実施 修了判定

課程の修了

所定の修業年限を満たし必要な単位を修得し、かつ口頭試問実施の上、論文審査に合格することで修了となり、修士の学位が授与されます。

修業年限 3 年の場合（臨床心理学専攻）

	テキスト履修	スクーリング履修	修士論文・指導	
1 年 目	4月	レポートの作成・提出		
	5月	添削指導	スクーリングの準備・受講の申込み	
	6月	科目最終試験の作成・提出	スクーリングの受講	
	7月		学習のまとめ・レポート提出等	
	8月		スクーリングの開講は、1 科目年 1 回と限られているので、各学年における科目の開講日程を参照し、学習計画をしっかりと立ててください。	
	9月			
	10月	レポートの提出は、毎月 1 日～10 日の受付期間に行ないます。1 回に提出できるレポートは 2 科目までです。必修科目の段階履修科目に注意して履修を進めてください。		
	11月			
	12月			
	1月			「研究テーマ」の提出
	2月			指導教員の決定
	3月			個人研究の推進
2 年 目	4月	レポートの作成・提出	「研究計画書」の作成	
	5月	添削指導	指導教員の面接指導	
	6月	科目最終試験の作成・提出	個人研究の推進	
	7月		面接指導	
	8月		面接指導	
	9月		面接指導	
	10月		面接指導	
	11月		面接指導	
	12月		面接指導	
	1月		面接指導	
	2月		面接指導	
	3月		面接指導	
3 年 目	4月	テキスト履修科目、スクーリング履修科目ともに 3 年目の夏ごろまでに完了しておくことが望ましいです。	中間発表会（意見聴取・質疑応答）	
	5月		面接指導	
	6月		「草稿」の作成・提出	
	7月		面接指導	
	8月		「草稿」の再提出	
	9月		面接指導	
	10月		「草稿」の再提出	
	11月	レポート提出最終期限（11月10日）		「草稿」の提出最終期限（12月15日）
	12月	科目最終試験提出最終期限（12月10日）		「修士論文」提出の許可判定／許可・作成着手（不許可の場合は研究継続を指示）
	1月			「修士論文」の提出
	2月			審査員 3 名の審査 口頭試問の実施
	3月			修了判定

課程の修了

所定の修業年限を満たし必要な単位を修得し、かつ口頭試問実施の上、論文審査に合格することで修了となり、修士の学位が授与されます。

臨床心理学専攻(修士課程)の履修について

授業科目の履修について

- (1) 専攻科目は、必修科目11科目18単位以上を履修します。
- (2) 関連科目は、A群～E群の各群からそれぞれ2単位以上、合計10単位以上を選択履修します。
- (3) 前記(1)(2)の要件を満たし合計30単位以上を修得することとなります。
- (4) 専攻科目の必修科目は段階履修です。したがって、1年次履修指定の必修科目「臨床心理学特論1」「臨床心理学特論2」「臨床心理面接特論1」「臨床心理面接特論2」「臨床心理査定演習1」「臨床心理査定演習2」の6科目12単位すべてを履修し合格しなければ、2年次履修指定の必修科目「臨床心理基礎実習1」「臨床心理基礎実習2」の2科目を履修することはできません(修了時期が延期されます)。同様に、2年次履修指定の必修科目「臨床心理基礎実習1」「臨床心理基礎実習2」の2科目2単位すべてを履修し合格しなければ、3年次履修指定の必修科目「臨床心理実習1」「臨床心理実習2」「臨床心理学研究指導演習」の3科目を履修することはできません(修了時期が延期されます)。
- (5) 専攻科目の必修科目「臨床心理査定演習1」「臨床心理査定演習2」の2科目4単位すべてを履修しなければ、「臨床心理査定演習3」「臨床心理査定演習4」の2科目を選択履修することはできません。ただし、4科目とも1年次履修科目であり、同一年度に履修を希望する場合は、4科目同時に申し込むことができます。
- (6) 専攻科目の必修科目「臨床心理基礎実習1」「臨床心理基礎実習2」の2科目2単位すべてを履修しなければ「臨床心理基礎実習3」「臨床心理基礎実習4」の2科目を選択履修することはできません。ただし、4科目とも2年次履修科目であり、同一年度に履修を希望する場合は、4科目同時に申し込むことができます。
- (7) 専攻科目「臨床心理実習3」は、カリキュラム表記上は選択科目ですが、必修科目の配属実習科目「臨床心理実習1」と「臨床心理実習2」を履修するに際して不可欠な授業科目となりますので、必ず履修してください。次頁の臨床心理実習についてを参照してください。
- (8) 臨床心理士の受験資格を得ようと希望する場合、関連科目の履修に際しては、財団法人日本臨床心理士資格認定協会が指定する5領域の単位を修得できるように授業科目を選択履修することが必要です。

修士論文の作成について

- (1) 1年次終了時に研究テーマを提出します。研究テーマは、「力動臨床心理学」、「行動臨床心理学」および「社会臨床心理学」のいずれかの領域から設定することになります。したがって、関連科目の選択においては、研究テーマを視野にいれて授業科目の履修計画を立ててください。なお先述のとおり臨床心理士の受験資格に必要な5領域の履修も必要です。
- (2) 提出された研究テーマにより、2年次から指導教員が決定し修士論文作成に向けた研究指導が開始されます。
- (3) 3年次には、2年次の研究指導に基づき修士論文作成の指導を引き続き受け、修士論文の仕上げをはかります。
- (4) 最終学年の12月15日までに、修士論文を完成し草稿を提出します。指導教員から提出の許可が出れば、修士論文の清書にかかり、翌年1月末までに修士論文(40,000字程度)を提出します。ただし、修了要件となる30単位を修得見込みでない場合は提出できません。
- (5) 提出された修士論文の審査が審査員3名で開始され、口頭試問等をもって最終試験が行なわれます。口頭試問は2月に実施され、必ず受けなければなりません。
- (6) 各学年で、修士論文中間発表会に出席しなければなりません。また指導教員の指導に基づき研究成果を発表します。
- (7) 28頁「修士論文作成のイメージ」および31頁「入学から修了までの履修の流れ」も参照してください。

臨床心理実習について

- (1) 専攻科目「臨床心理実習1」は、医療関連機関で実際に臨床活動に携わり、現場のスタッフと指導教員等の指導のもと、現場のスタッフ達との連携、精神障害者や高齢者、ターミナル期にある人達との関わりなどを通しての訓練を受けます。配属実習であり、週1日の実習を15週間にわたり医療関連機関に通って実施します。実習実施の機関や日程の決定に際しては、指導教員の指導を受けることとなります。
※実習開始予定の1年前には各自で実習機関を探し始め、できるだけ早い時期に受け入れの内諾を得よう努めなければなりません。

- (2) 専攻科目「臨床心理実習2」は、小学校・中学校・高等学校の教育関連機関で実際に臨床活動に携わり、現場の担当スタッフと指導教員の指導のもと、「不登校」や「引きこもり」などの子どもたち、教師や保護者との関わりを通しての訓練を受けます。配属実習であり、週1日の実習を15週間にわたり教育関連機関に通って実施します。実習実施の機関や日程の決定に際しては、指導教員の指導を受けることとなります。
※実習開始予定の1年前には各自で実習機関を探し始め、できるだけ早い時期に受け入れの内諾を得よう努めなければなりません。

- (3) 専攻科目「臨床心理実習3」は、「臨床心理実習1」と「臨床心理実習2」で担当している事例のカウンセリングやプレイセラピーまたはグループの実習内容について、指導教員のスーパーヴィジョンを受けます。スクーリング開講日程は、配属実習期間中に年8回を予定しています。指導教員の指導にしたがって受けることになります。

- (4) 実習費(140,000円)が別途必要です。

臨床心理実習 1

〈実習方法〉 配属実習
 〈実習時期〉 3年次以降
 〈実習場所〉 医療関連機関
 〈実習期間〉 週1日の実習を15週間にわたり実施

臨床心理実習 2

〈実習方法〉 配属実習
 〈実習時期〉 3年次以降
 〈実習場所〉 小学校・中学校・高等学校の教育関連機関
 〈実習期間〉 週1日の実習を15週間にわたり実施

臨床心理実習 3

〈実習方法〉 スーパーヴィジョン(教員による面接指導)スクーリングとして実施
 〈実習時期〉 3年次以降
 〈実習期間〉 「臨床心理実習1」「臨床心理実習2」の配属実習期間中に年8回